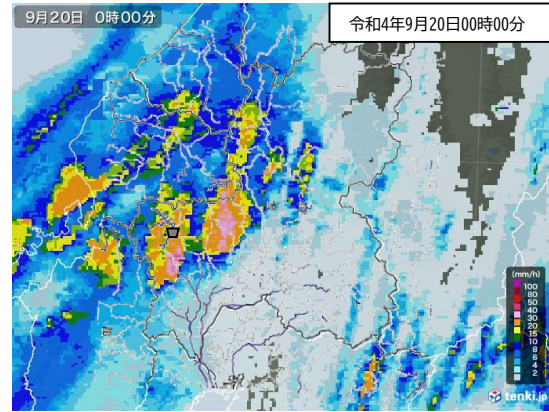
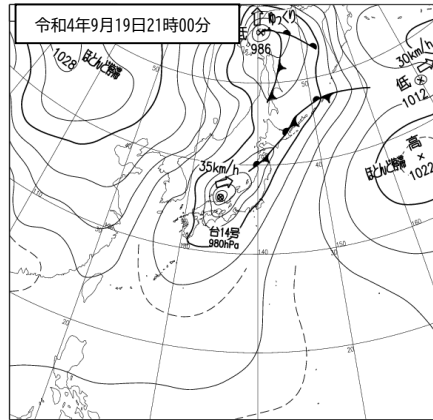
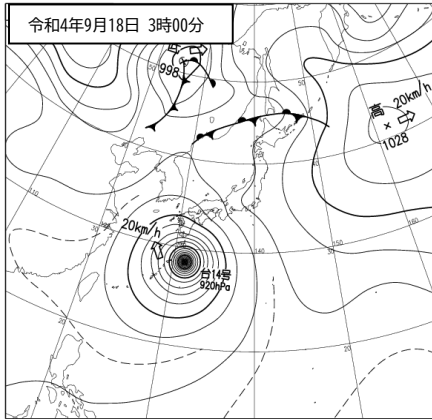
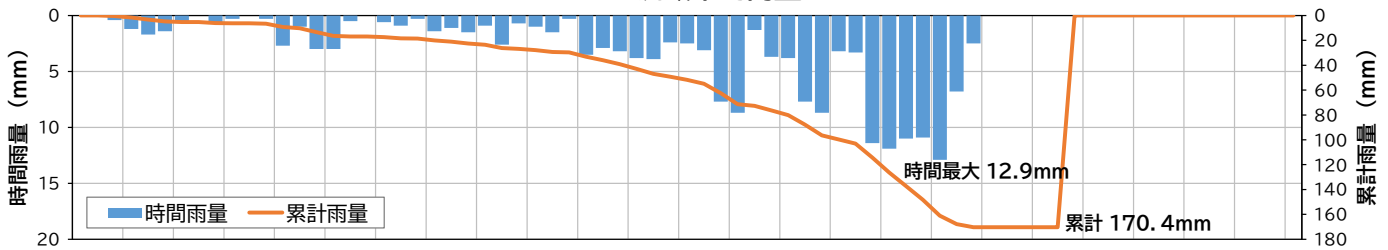


- 九州地方を縦断する台風14号周辺の暖かく湿った空気が流れ込み、9月18日未明から大気の状態が非常に不安定となったため徳山ダム流域で雨が降り始めた。
- その後、日本海側を通過する台風本体の影響が加わり、9月19日昼頃から9月20日未明にかけて激しい雨となり、流域平均総雨量は170.4mmを観測した。
- 特に台風が接近する19日深夜から20日明け方にかけて徳山ダム流域付近を含む地域を北上する形で強い雨を伴う雨雲が通過したことにより、9月19日22時から翌4時にかけてまとまった降雨を観測した。
- この降雨の影響で徳山ダムへの流入量が20日0時01分に洪水量に達したため、放流量をゼロにし全量を貯留する防災操作（洪水調節）を実施した。
- 雨は台風が遠ざかるとともに弱まり、ダム流入量は8時44分に洪水量を下回った。
- 防災操作中のダム流入量は最大約350m³/sであったが、放流ゼロで全量をダムに溜め込み、ダム下流の河川流量を低減した。



流域平均雨量



徳山ダムの状況

